

「研究の手引き」

令和4年度～



福井県小学校長会

学校保存

目 次

はじめに	．．．．．	1
1 研究主題 2 趣旨	．．．．．	2
3 研究の基本構想	．．．．．	3
第1分科会 学校経営	．．．．．	4
第2分科会 知性・創造性	．．．．．	5
第3分科会 人間性・健康	．．．．．	6
第4分科会 人材育成	．．．．．	7
第5分科会 危機管理	．．．．．	8
第6分科会 社会形成能力	．．．．．	9
第7分科会 自立と共生	．．．．．	10
第8分科会 連携・協働	．．．．．	11
資料：福井型8分科会	．．．．．	12

は じ め に

福井県小学校長会教育研究専門委員会

令和２年度より、新学習指導要領が完全実施されました。急速に変化する社会への対応として、子供が自ら学び、自ら考える力など「生きる力」を育成するために、「何ができるようになるか」「何を学ぶか」「どのように学ぶか」を再確認するなど、カリキュラム・マネジメントの実現が求められています。私たち校長は、主体的に考えて行動し、新たな価値の創造に喜びを感じ、自分の生き方に自信をもつ児童の育成に努めなければなりません。

令和２年度、全国連合小学校長会は、教育の普遍的使命や新しい時代の要請と新学習指導要領を踏まえたうえで、第７２回京都大会から、大会主題を「自ら未来を拓き ともに生きる豊かな社会を創る 日本人の育成を目指す小学校教育の推進」と決めました。また、東海・北陸地区連合小学校長会は、全国連合小学校長会が定めた大会主題を受け、「未来に向かって生き抜く子供の育成を目指した学校教育の創造と推進」に努めてきました。

これらのことを踏まえ、第５５回東海・北陸連合小学校長会教育研究福井大会は、研究主題を「自ら未来を拓き ともに生きる豊かな社会を創る 日本人の育成を目指す小学校教育の推進」、副主題を「夢と希望の実現に向けて主体的・協働的に学び 社会を生き抜く力を育成する学校経営」としました。

福井型８分科会については、従来の研究領域及び研究課題を、第５５回福井大会の趣旨に沿って一新することとなりました。県下の校長先生への周知徹底を図るため、新しい８分科会のスタートを、令和４年度福井県小学校長教育研究坂井大会からとします。

ここに、分科会の研究課題とその趣旨、及び研究の視点を「研究の手引き」としてまとめました。今後の福井県校長会の研究の一助となることを願っています。

これまで、情報化、グローバル化、少子高齢化・・・など、社会が激しく変わる時代が続き、そして、ＩｏＴ（モノのインターネット）やＡＩ（人工知能）などの最新テクノロジーを活用した便利な社会「Ｓｏｃｉｅｔｙ ５.０」を迎え、「社会が変わる、学びが変わる」と言われています。どのような時代を迎えても、私たち校長の使命は、今求められる教育内容に真摯に向き合いながら、しっかりと学校経営を行うことです。私たち校長が、より一層の情報と実践を共有し合い、校長の果たすべき役割と指導性について研究を進め、新たな時代に対応した学校教育の在り方を、力を合わせて探っていきましょう。

Ⅰ 研究主題

自ら未来を拓き ともに生きる豊かな社会を創る

日本人の育成を目指す小学校教育の推進

－ 夢と希望の実現に向けて主体的・協働的に学び

未来を生き抜く力を育成する学校経営 －

2 趣 旨

今日の知識基盤社会にあっては、情報化やグローバル化が進展する一方、少子高齢化や家庭・社会における人間関係の希薄化、貧困問題等の社会的要因が複雑に絡み合い、変化の激しい予測困難な現象や社会問題が出現している。こうした混沌とした社会情勢の中で、今回の新学習指導要領では、教育の目的として、産業が発展し環境が保護され様々な民族・文化が共存できるような「持続可能な社会」の創り手となる子供の育成が明示された。

そこで学校教育においては、「社会に開かれた教育課程」の実現を通して、確かな学力、豊かな人間性、健康と体力の調和を重視した「生きる力」を育むことが責務となる。社会の質的な変化に主体的に向き合い、自らの人生やよりよい社会を創造していくために必要な資質・能力の育成が要請されるようになったのである。

特に、人間形成の基礎を培う小学校教育においては、子供たちが目標を明確にし、互いに切磋琢磨しながら主体的・協働的に学び、対話を通して多様な他者と協力して新たな価値を生み出すことが重要である。また、人間性を育みながら地球的規模の視野や人とのつながりを大切にした生き方を確立して、未来を切り拓くために努力することが大切である。つまり、人間関係形成力の育成を基にした思考力・判断力・表現力の育成とともに、主体的に学習する態度を含め、知識の構造化と思考の展開を推進する原動力である「学びに向かう力」の涵養が求められているのである。

そのためには、まず一人一人が志をもち、可能性に挑戦する態度と豊かな知性と感性に裏打ちされた人格形成を図りながら、「夢と希望」を育むことが大切である。そして、「夢と希望」をもつことが礎となって、子供たちは学ぶことの意味や価値を見出し、難しいことにも立ち向かい、最後までやり遂げることで自己実現を目指すことができるようになる。様々な情報に振り回されることなく、粘り強く相互に理解し合い、ともに生きていくことができる道を探っていくことが極めて大切となる。

そこで、全国連合小学校長会研究主題を受け、副主題を「夢と希望の実現に向けて主体的・協働的に学び 未来を生き抜く力を育成する学校経営」と設定した。そして、全連小大会・東陸連小大会における13分科会を、福井県の学校数等より、下記のような福井型8分科会に編成して校長の役割を究明していく。

- | | | | |
|----------|------------|------------|-----------|
| (1) 学校経営 | (2) 知性・創造性 | (3) 人間性・健康 | (4) 人材育成 |
| (5) 危機管理 | (6) 社会形成能力 | (7) 自立と共生 | (8) 連携・協働 |

私たち校長は、これまでの福井県における研究・実践の積み重ねを基にして、教育の普遍的使命や新しい時代の要請に応え、未来をたくましく生き抜く子供の育成を目指した学校教育の創造と推進に努めていかなければならない。

3 研究の基本構想

研究領域	研究課題	研究の視点
1 学校経営	創意と活力に満ちた学校経営	(1)未来を見据えた魅力ある学校経営ビジョンの策定と推進
		(2)学校経営ビジョンの実現に向けた活力ある組織づくりと学校運営
		(3)学校教育の充実を図るための評価・改善の推進
2 知性・創造性	知性・創造性を育むカリキュラム・マネジメントの推進	(1)主体的・対話的で深い学びの実現に向けたカリキュラム・マネジメント
		(2)知性・創造性を育む教育課程
3 人間性・健康	豊かな人間性や健やかな心身を育む教育課程	(1)豊かな心を育む教育課程のマネジメント
		(2)健やかな心身を育む教育課程のマネジメント
4 人材育成	学校の教育力を高める研究・研修とミドルリーダーの育成	(1)学校の教育力を向上させる研究・研修の推進
		(2)これからの学校を担うリーダーの育成
5 危機管理	子供を取り巻く様々な危機への対応	(1)自らの命を守る安全教育の推進
		(2)危機管理能力の育成と未然防止に向けた組織体制づくり
6 社会形成能力	社会形成能力を育む教育の推進	(1)社会の発展に貢献する資質や能力を培う教育活動の推進
		(2)地域に愛着をもち、よりよい社会の創造に貢献する力を育むキャリア教育の推進
7 自立と共生	自立と共生の実現に向けた教育活動の推進	(1)子供の自立や社会参加に向けた特別支援教育の推進
		(2)共に生きる社会の実現に向けた資質・能力を育む教育の推進
8 連携・協働	家庭や地域との連携・協働と学校段階等間の接続の推進	(1)家庭・地域等と連携・協働を深め、創意ある教育活動を展開する学校づくりの推進
		(2)学びの連続性を重視し、学校段階等間を円滑に接続する組織的な取組の推進

第1分科会 学校経営

1 研究課題

創意と活力に満ちた学校経営

2 趣 旨

今日の知識基盤社会は、グローバル化や少子高齢化、情報技術の進展等、変化の激しい予測困難な社会となっている。このような時代を生きる子供たちには、変化を前向きに受け止め、持続可能な社会を創り出していくことができるよう、必要な資質・能力を育てていくことが求められている。

校長は、子供たちに求められる資質・能力について、学校と家庭・地域が相互に理解しながら学校教育を推進できるようにする必要がある。創意を生かし未来を見据えた明確な学校経営ビジョンを示すとともに、活力に満ちた学校運営を行わなければならない。また、学校経営ビジョン実現のためには、全教職員によるビジョンの共有や活力ある組織づくりと学校運営が重要である。さらに、絶えず評価（学校評価と人事評価の2側面）と改善を進めていくことが大切である。

本分科会では、校長が創意と活力に満ちた学校経営を行っていくために、未来を見据えた学校経営ビジョンの策定とその実現を図るための組織づくり、及びそれらの評価・改善についての具体的方策と成果を明らかにする。

3 研究の視点

（1）未来を見据えた魅力ある学校経営ビジョンの策定と推進

校長は、子供たちの未来を見据えた中・長期的な視点に立ち、学びに向かう力・人間力や人間関係形成力など、「自主と協働」の力を育み、教職員、保護者、地域住民が共通理解して連携・協働していくためのビジョンを示さなければならない。

また、新しい時代にふさわしい学校としての自主性、自立性を確立し、創意と活力に満ちた学校経営を推進していかなければならない。

このような視点に立ち、未来を見据えた魅力ある学校経営ビジョンの策定と学校経営を推進していく上での校長の果たすべき役割と指導性を明らかにする。

（2）学校経営ビジョンの実現に向けた活力ある組織づくりと学校運営

校長は、学校経営ビジョンの実現に向けて、教職員一人一人の能力・資質、特徴、専門性を正確に把握し、適材適所に配置し、教職員がもてる力を最大限に発揮できる活力ある組織づくりを進めなければならない。

また、家庭・地域社会の願い、学校の教育課題を学校、家庭、地域社会で共有し、連携を機能させていかなければならない。

このような視点に立ち、学校経営ビジョンの実現に向けた活力と実行力のある組織づくりと、組織を活性化していく上での校長の果たすべき役割と指導性を明らかにする。

（3）学校教育の充実を図るための評価・改善の推進

学校は、自らの教育活動及びその他の学校運営の成果や取組を不断に検証することにより、学校経営の組織的かつ継続的な改善を図っていく必要がある。

校長は、教職員一人一人がキャリアステージに応じた専門性や指導力を身に付け、目標達成に向けて能力を発揮する過程や成果を適切に評価する必要がある。

このような視点に立ち、学校評価を効果的に活用し教育活動の充実を図る上での、及び人事評価を教職員の資質・能力の向上と業務改善に生かす上での校長の果たすべき役割と指導性を明らかにする。

第2分科会 知性・創造性

1 研究課題

知性・創造性を育むカリキュラム・マネジメントの推進

2 趣 旨

少子高齢化が加速し、グローバル化や先端技術の高度化が進展する社会の中で、子供たちは夢や目標をもち、自分のよさと可能性を信じて他者と協働しながら主体的に課題解決を図り、新しい社会を創造し、豊かで幸せに生き抜く力を身につける必要がある。

学校においては、豊かな創造性を備え持続可能な社会の創り手となることが期待される児童に、生きる力を育むことを目指し、知識・理解の習得、思考力・判断力・表現力の育成、学びに向かう力・人間性の涵養を目指した教育課程を編成しなければならない。また、子供たちに求められる資質・能力を社会と共有し、連携および協働によりその実現を図っていく「社会に開かれた教育課程」を実現していく必要がある。また、基本的な知識や技能の獲得を充実させ、どのような変化にも対応でき、仲間、地域、社会との関わりや絆を大切し、課題を乗り越えるためのしなやかな知性・創造性を身に付けることが望まれる。そのためには、教育の内容を教科等横断的視点で組み立て、人的または物的な体制を確保するとともに、学習効果の最大化を図るために実施状況を評価し、改善を行っていくカリキュラム・マネジメントの実現が求められる。

本分科会では、校長のリーダーシップの下、よりよい学校教育を通してよりよい社会を創るという理念を学校と社会が共有し、しなやかな知性・創造性を育む教育課程の具体的なカリキュラム・マネジメントについての具体的方策と成果を明らかにする。

3 研究の視点

(1) 主体的・対話的で深い学びの実現に向けたカリキュラム・マネジメント

学習指導要領には、児童の人間としての調和のとれた育成を目指し、児童の心身の発達の段階や特性及び学校や地域の実態を十分考慮して、適切な教育課程を編成し、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を通して、創意工夫を生かし、特色ある教育活動を展開し児童に生きる力を育むことを目指すと明記された。

授業改善は、児童や学校、地域の実態を適切に把握し、教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を教科等横断的な視点で組み立て、教育課程の実施状況を評価してその改善を図り、教育課程の実施に必要な人的または物的な体制を確保するとともにその改善を図っていくことなどを一部の教職員だけではなく学校全体の取組として実践していかなければならない。

このような視点に立ち、カリキュラム・マネジメントを推進するための校長の果たす役割と指導性を明らかにする。

(2) 知性・創造性を育む教育課程

児童の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行うためには、各教科等の特質に応じた見方・考え方を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう過程を重視した学習の充実を図ることが重要である。

そのため、校長には、全教職員が育成すべき資質・能力について共通理解を深め、必要な学習指導の工夫や教材の開発について協働して取り組み、実践の結果を基に教育課程の見直しを常に図っていくPDCAサイクルを確立することが求められる。

このような視点に立ち、知性と創造性を育む教育課程を編成・実施・評価・改善していくための校長の果たすべき役割と指導性を明らかにする。

第3分科会 人間性・健康

1 研究課題

豊かな人間性や健やかな心身を育む教育課程

2 趣 旨

これからの予測不可能な時代、多文化共生を迎えようとしている時代を生きていく子供たちには「人としてより良く生きる力」や「生涯を通じて健康・安全で活力ある生活を送るための基礎」を身に付けさせることが重要な課題である。これらは、心身ともに健康な個人や国民として、より幸せな未来を拓くための一助となり、それを根底で支える役割を担う。

学校教育においては、その課題を達成するために多様な体験活動、充実した言語活動、多様な表現や鑑賞を教育課程にバランスよく組み込むとともに、教育課程外の学校教育活動とも相互に関連させ、有効に機能させる必要がある。

本分科会では、上記の課題を達成するため、豊かな心や創造性の涵養と、生きる力を支える重要な要素である体力の育成、健康で安全な生活の基礎を身に付けるための健康教育を推進する教育課程についての具体的方策と成果を明らかにする。

3 研究の視点

(1) 豊かな心を育む教育課程のマネジメント

豊かな心の育成は、すべての教育活動で計画的、継続的に行われると共に、特別の教科道徳（以下道徳科）において補充・深化・発展統合されることによって一層充実が図られる。さらにこれからは子供たちの規範意識をもたせ、同時に自尊感情を高め、夢や希望に向かってたくましく生きることができるよう、自立心を養わなければならない。

このような視点に立ち、家庭や地域との連携により、多様な人々や自然・環境等との関わりの中で多様な体験活動をはじめとする教育課程とそれ以外の学校教育を組み合わせ、豊かな心とバランスのとれた人権感覚を育む道徳教育を推進するための校長の果たす役割と指導性を明らかにする。

(2) 健やかな心身を育む教育課程のマネジメント

子供たちの生活全体から日常的な運動が減少し、運動経験の二極化が懸念されている。子供たちが将来的に、健康で安全な生活を送るための要素の一つに豊かなスポーツライフの実現がある。そこで、学校教育においては、体育的な活動を教育活動全体計画に位置づけ内容を工夫すると共に、子供が楽しいと感じながら、運動に親しむ体育授業の充実が求められる。

また、発育・発達の著しい小学校教育においては、心身の成長発達に関しての基礎的な知識の習得と健康に関する実践的な判断力や行動を選択する力を育てていく必要がある。学校給食の教育的効果を最大限に生かし、望ましい食習慣を身に付けるための食育を推進することも大きな役割である。加えて、頻発する自然災害や犯罪への意識を高め、自分の身は自分で守ろうとする姿勢を育てる必要もある。

このような視点に立ち、学校体育・学校保健・学校安全・学校給食を活用した食育などを相互に関連させながら、子供たちの健やかな心身を育むための校長の果たすべき役割と指導性を明らかにする。

第4分科会 人材育成

1 研究課題

学校の教育力を高める研究・研修とミドルリーダーの育成

2 趣 旨

今日の知識基盤社会にあっては、学校を取り巻く環境や学校に求められる役割も複雑化・多様化している。こうした中で、子供たちに21世紀を生き抜く力を育むことは責務であり、可能性に挑戦する態度とともに、「主体的に生きる力」「他者とともに生きる力」を育成する学校の教育力が求められている。また、教員の世代交代が進む今、学校組織の中核となり、管理職やベテランと若手を繋ぐ役目を果たすミドルリーダーの育成と資質向上は重要な課題である。

学校の教育力を向上させるには、教職員一人一人の資質・能力の向上に加えて、質の高い教育をチームとして実践する学校づくりが必要である。教職員の世代交代に対応し、授業力や専門性の伝承と深化、実践的指導力を蓄積する研究体制を構築していかなければならない。そのためには、新たな教育課題に対応する研修の活性化、様々な専門性をもつ人材との効果的な連携、保護者や地域の力を学校運営に生かす「社会に開かれた教育課程」を重視することが必要である。また、学校の組織力を向上させるためには、学校組織として、意図的かつ継続的に研修機会を設けて、教職員の学校運営への参画意識を高め、具体的な職務内容の理解を図っていかなければならないが、そのためには、ミドルリーダーの育成と資質向上は不可欠である。

本分科会では、学び続ける教職員の資質・能力の向上を目指すとともに、学校経営への参画意識をもたせ、学校の教育力を向上させる研究・研修体制の確立とその推進、そして、教育者としての使命感を持ち、学校の諸課題に前向きに取り組むミドルリーダーを育成するための具体的な方策と成果を明らかにする。

3 研究の視点

(1) 学校の教育力を向上させる研究・研修の推進

「持続可能な社会」の創り手となる子供たちには、生きて働く「知識・技能」の習得、未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力」の育成、学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養といった資質・能力が重要である。そのためにも、教職員は自ら学び続ける意欲を常にもち、「夢と希望の実現に向けて主体的・協働的に学び 社会を生き抜く力の育成」に向けた授業改善やカリキュラム・マネジメント等が求められている。

このような視点に立ち、学び続ける教職員の資質・能力を高める研究・研修体制を充実させるため、校長の果たすべき役割と指導性を明らかにする。

(2) これからの学校を担うリーダーの育成

「チームとしての学校」をよりよい方向へ導くために学校組織の要となるミドルリーダーに求められる役割は、学校ビジョン構築への参画と教育活動の推進、職場の活性化、同僚教職員の指導・育成や学校外部との折衝・対応など多岐に渡る。校長には、ミドルリーダーが学校組織のリーダーとして、取り組むべき課題を明確化させ、実現のシナリオを描き、教職員と協働して解決できる資質・能力を育成することが求められている。副校長・教頭等にもミドルリーダーに適切な指導・助言を行うよう指示し、学校運営の中核となる機会を設けるなど、リーダーとしての実践力と応用力を高めることが重要である。

このような視点に立ち、学校教育への確かな展望をもち、優れた実践力と応用力のあるミドルリーダーを意図的かつ計画的に育成するための校長の果たすべき役割と指導性を明らかにする。

第5分科会 危機管理

1 研究課題

子供を取り巻く様々な危機への対応

2 趣 旨

近年、子供たちを取り巻く社会的な環境は日々激しく変化し、学校が対応しなければならない危機は、地震や風水害等の自然災害のみならず、多岐にわたっている。交通事故や不審者犯罪などの事件事故、いじめ、不登校、暴力行為等の生徒指導上の問題、児童虐待の増加や食物アレルギーへの対応等、課題が山積している。

学校が子供たち一人一人の夢と希望の実現に向けた学ぶ場となるためには、子供たちの安全を守り、安心して学習や活動に取り組むことができる環境を整備する必要がある。さらに、子供たちに、自然災害や事件・事故等に関わる知識や、それに基づいて適切に判断・行動し、自他の命を守る力を養うことが求められている。

そのために、危機を予見・回避するための方策を講じるとともに、事件・事故の未然防止や適切な対応等、学校危機管理の体制を確立し、教職員及び子供たち一人一人の危機対応力を高めることが求められる。

校長は、教職員が様々な危機に適切に対応できるよう、個々の危機管理意識を高めるとともに、学校全体の危機管理体制の充実・改善を行う必要がある。また、日常的に起こりうる危機を想定しながら、保護者や地域、関係機関との連携・協働を図り、ともに子供たちの安全・安心を確保していく組織体制づくりを推進することが重要である。

本分科会では、子供たちの命を守る安全教育の推進と様々な危機から子供たちの生命と安全を守る適切な対応の在り方、危機の未然防止のための組織体制づくりについての具体的方策と成果を明らかにする。

3 研究の視点

(1) 自らの命を守る安全教育の推進

安全に関する学習を教育課程に位置付け、組織的・計画的な指導を推進する必要がある。また、これまでに無かった場面を想定した実践的活動を体験するなど、子供たちに安全に関する判断力・行動力を身に付けさせ高めていくための取組を推進する必要がある。さらに、子供たちを含む地域全体の防災力向上のため、関係機関と連携して、防災計画の策定や訓練を実施していかなければならない。そして、次世代の地域防災の担い手となる子供たちが、自分の命は自分の力で守る「自助」と、自分たちが属する地域の安全は地域コミュニティで守る「共助」の考え方を理解し行動できるように、家庭や地域と協力して安全教育・防災教育を進める必要がある。

このような視点に立ち、子供たちが災害や事故の危険性を認識し、自分たちの力で自らの命を守り抜く危機回避能力を育む教育をより一層充実させるうえでの、校長の果たすべき役割と指導性を明らかにする。

(2) 危機管理能力の育成と未然防止に向けた組織体制づくり

いじめや不登校等はどの子供や学校にも起こり得るとの危機意識に立つ必要がある。その上で、予防的な取組を図ることも含め、教職員間で情報を共有しながら、組織的に対応することが必要である。他にも、様々な危機への対応について、教職員の共通理解のもと組織的な対応を図っていく必要がある。

校長は、予防的な取組として、いじめ防止等子供たち自身が主体的に向き合う態度を育成する取組を推進する必要がある。また、問題発生の際に対して学校全体で早期に対応するなど、各学校の「いじめ防止基本方針」に基づく取組の推進に努めていくことが重要である。さらに、教職員の危機意識や危機対応能力を高める研修の取組を推進していかなければならない。

このような視点に立ち、教職員の高い危機管理能力の育成と未然防止に向けた組織体制づくりを推進するうえでの校長の果たすべき役割と指導性を明らかにする。

第6分科会 社会形成能力

1 研究課題

社会形成能力を育む教育の推進

2 趣 旨

今日の社会では、SNSが発達する一方で、人間関係の希薄化により、地域社会の教育力の低下が問題となっている。少子高齢化による地域活動停滞の傾向が進み、子供たちが異なる世代の人々と触れ合う機会が失われつつある。また、就業構造も大きく変化し、子供たちが、自身の未来を豊かに思い描くことが困難な状況も生まれてきている。

このため学校は、子供たちに、様々な社会の変化を乗り越えようとする強い意志を培い、社会を構成する一員として様々な人々と協働しながら、持続可能な社会の創り手となることができるような資質・能力、態度を育成する必要がある。

校長は、これらのことを踏まえ、身近な社会の問題の解決に向かって、子供たち自身が進んで考え、取り組めるような教育活動を推進する必要がある。そうした活動を通して、社会の構成員として社会に参画し主体的に活躍できる人材を育成していかなければならない。

また、キャリア教育の視点を取り入れた教育活動を行うことにより、子供たちに社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力、態度等を育み、自己実現を図りながら、よりよい社会の創造に自ら積極的に関わろうとする人材を育成することが重要である。

本分科会では、よりよい社会の形成者として必要な、身近な社会の問題を解決していく能力や態度などを育むための具体的方策と成果を明らかにする。

3 研究の視点

(1) 社会の発展に貢献する資質や能力を培う教育活動の推進

学校は、子供たちに、身近な社会の問題を解決する活動等を通して、社会的・職業的に自立した社会人として必要な資質や能力を育み、よりよい社会づくりに参画しようとする態度を養う教育活動を展開していかなければならない。その中で、多様な人々と協働しながら、目指す子供像を共有し、ともに子供たちを育む関係を築いていくことが求められる。

このような視点に立ち、自己の役割を認識し、他者と協力しながら、よりよい社会の実現に貢献しようとする意欲をもち、主体的な態度を身に付けるための教育活動の推進について、校長の果たすべき役割と指導性を明らかにする。

(2) 地域に愛着をもち、よりよい社会の創造に貢献する力を育む

キャリア教育の推進

学校は、キャリア発達を促す教育活動を通して、子供たちが、地域の大切さを実感するとともに、地域で生きていくことに誇りをもてるようにしていかなければならない。

校長は、日々の教育活動に地域・社会の人々の積極的な参画をマネジメントすることにより、「地域や家庭での役割を果たし、ともに生きること」「社会に参画し貢献すること」を理解し、行動できるようにすることを計画し、また、こうしたことを「学ぶこと」への意欲につなげられるような教育課程を編成しなければならない。

このような視点に立ち、豊かな未来社会の実現に貢献する力を育むキャリア教育を推進するうえでの校長の果たすべき役割と指導性を明らかにする。

第7分科会 自立と共生

1 研究課題

自立と共生の実現に向けた教育活動の推進

2 趣 旨

グローバル化と多様化が進むなど社会が著しく変化する現代において、我が国が目指すべきは、一人一人が自立し互いの人格と個性を尊重し支え合う共生社会である。その実現のため、小学校教育では、一人一人の自分らしさを大切にしながら、夢と希望をもって「自立する力」を育むとともに、互いに仲間として支え合い、よりよい社会を築いていこうとする「共生」の態度を養うことが大切である。

学校においては、障がいの有無に関わらず、誰もが自立し相互に尊重し合える社会を築くために、障がいのある子供の自立や社会参加に向けた主体的な取組を支援する必要がある。そのためには、子供一人一人の教育的ニーズを把握するとともに、生活や学習上の困難を改善又は克服できるような指導及び支援を行うことが重要となる。また、子供たちには、多様な人々と協働しながら、「多文化共生社会」、「男女平等参画社会」、「障がいのある人や高齢者の共生社会」、「自然との共生社会」など、様々な分野での「共生社会」の創り手となっていくことが求められている。

校長においては、自立に向けた子供の個別のニーズに応じた教育や、多様な人々が共に生きる社会の実現に向けて、多様性の尊重や他者を理解し共感できる心を子供たちに醸成していく学校づくりが期待されている。

本分科会では、「自立と共生」の実現に向けた学校教育の重要性を自覚し、校内支援体制や学習環境および教育課程の整備、関係機関との連携を推進するための具体的方策と成果を明らかにする。

3 研究の視点

(1) 子供の自立や社会参加に向けた特別支援教育の推進

今日、共生社会の実現のため、障がいの有無に関わらず共に学ぶインクルーシブ教育が求められている。特別支援教育はその中核を成すものであり、学校は、障がいのある子供の状态的確に把握し、必要な支援を必要なときに提供することにより、子供の能力が十分に発揮できる環境を整えていく必要がある。

校長は、校内の支援体制の充実を図るとともに、相談機関等の関係機関との連携を強化し、障がいの有無に関わらず、全ての子供たちにとって必要な学習環境の整備に努めなければならない。

このような視点に立ち、子供の自立や社会参加に向けた主体的な取組を支援する特別支援教育を推進する上での校長の果たすべき役割と指導性を明らかにする。

(2) 共に生きる社会の実現に向けた資質・能力を育む教育の推進

社会が少子高齢化やグローバル化する今、一人一人の子供が自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら「共生社会」の創り手となることが求められている。

校長は、「共生社会」を実現するため、多様性を尊重し共感する心を子供たちに培っていく教育活動を進めていかなければならない。

このような視点に立ち、「共生社会」を実現するための教育活動を推進する上での校長の果たすべき役割と指導性を明らかにする。

第8分科会 連携・協働

Ⅰ 研究課題

家庭や地域との連携・協働と学校段階等間の接続の推進

2 趣 旨

今日、情報化やグローバル化の進展等に伴う激しい社会環境の変化の中で、家庭や地域においては、急激な少子高齢化や人間関係の希薄化、家庭教育力の低下などの課題が指摘されている。学校においても、いじめや不登校、貧困など子供を取り巻く問題が複雑化・困難化している。子供たちが、人間性豊かな未来社会を切り拓くためには、家庭や地域と学校が、連携・協働するための組織的・継続的な仕組みを構築することが必要である。さらに次代を担う子供たちが、本来もっている能力を十分に発揮し、自己実現を図っていくためには、学校段階等間の円滑な接続を推進し、発達の段階に応じた切れ目のない教育の充実を図ることが重要である。

本分科会では、子供一人一人の未来を見据え、家庭や地域等との連携・協働や、学校段階等間の円滑な接続を推進するための具体的方策と成果を明らかにする。

3 研究の視点

(1) 家庭・地域等と連携・協働を深め、創意ある教育活動を展開する学校づくりの推進

子供たちが持続可能な社会の創り手となるためには、ふるさとへの誇りや愛着を醸成するとともに、地域社会の課題を見出し、よりよく変えていこうとする資質や能力を育成することが重要である。そのために学校は、家庭や地域とともに継続的・双方向的な連携・協働を推進し、それぞれの教育機能が確実に発揮できるようにするための中心的な役割を果たすことが求められている。

校長はこの認識のもと、家庭や地域等と目標やビジョンを共有し、地域の教育資源を有効に活用することで、家庭や地域とともにある学校として連携・協働を推進していく必要がある。

このような視点に立ち、家庭や地域等と連携・協働を深め、創意ある教育活動を展開するうえでの校長の果たすべき役割と指導性を明らかにする。

(2) 学びの連続性を重視し、学校段階等間を円滑に接続する組織的な取組の推進

「小1プロブレム」「中1ギャップ」と呼ばれる学校段階等間の接続上の課題が依然として存在している。子供たちが入学時にうまく学校に適應できるようにするためには、異なる校種において教育活動の成果と課題を共通理解したり、成長の連続性を踏まえた学習や支援の継続をしたりすることで、円滑な接続・連携をより一層推進する必要がある。

校長は、長期的な展望に立ち、幼児期の教育を通して育まれた資質・能力を受け継ぐとともに、小学校教育の成果を中学校に引き継げるよう、円滑で切れ目のない接続の推進に努めなければならない。

このような視点に立ち、学びの連続性を重視し、学校段階等間の円滑な接続を推進するうえでの校長の果たすべき役割と指導性を明らかにする。

資料 福井型 8 分科会

全国の 13 分科会				
研究領域		福井大会の分科会		Key Word
I	学校経営	1	経営ビジョン	創意活力ある経営ビジョン
		2	組織・運営	活力ある組織づくりと運営
		3	評価・改善	学校評価の充実
II	教育課程	4	知性・創造性	授業改善・教育課程の編成
		5	豊かな人間性	道德教育・人権教育の推進
		6	健やかな体	生涯、健康・安全な生活
III	指導・育成	7	研究・研修	学校の教育力の向上
		8	リーダー育成	これからの学校を担う
IV	危機管理	9	学校安全	命を守る安全・防災教育
		10	危機対応	危機への対応と未然防止
V	教育課題	11	社会形成能力	社会に貢献、キャリア教育
		12	自立と共生	社会参画、ともに生きる
		13	社会との連携・協働	家庭地域連携・園小中接続

福井型 8 分科会		福井大会 13 分科会 研究課題
1	学校経営	①創意と活力に満ちた学校経営ビジョンの策定と推進 ②学校経営ビジョンの実現に向けた活力ある組織づくりと学校経営 ③学校教育の充実を図るための評価・改善の推進
2	知性・創造性	④知性・創造性を育むカリキュラム・マネジメントの推進
3	人間性・健康	⑤豊かな人間性を育むカリキュラム・マネジメントの推進 ⑥健やかな体を育むカリキュラム・マネジメントの推進
4	人材育成	⑦学校の教育力を向上させる研究・研修の推進 ⑧これからの学校を担うリーダーの育成
5	危機管理	⑨命を守る安全教育・防災教育の推進 ⑩様々な危機への対応と未然防止の体制づくり
6	社会形成能力	⑪社会形成能力を育む教育活動の推進
7	自立と共生	⑫自立と共生の実現に向けた教育活動の推進
8	連携・協働	⑬家庭や地域等との連携・協働と学校段階等との間の接続・連携の推進

県大会・東陸大会・全国大会の発表分科会割当 *H25年度以降

令和6年4月11日

年度	大会	奥越18→16	南越22	二州14	鯖丹20→17	福井51	坂井26	福井・吉田7→6	若狭26→25
25	県大会(若狭大会)	旧3(勝山)	旧4(越前)	旧5(敦賀)	旧6(丹生)	旧7(福井)	旧8(坂井)	旧1(吉田)	旧2(大飯)
	東陸・全国(三重大会)	×	×	×	×	×	×	×	4(知性・創造性)
26	県大会(鯖丹大会)	旧4(大野)	旧5(越前)	旧6(三方)	旧7(鯖江)	旧8(福井)	旧1(坂井)	旧2(福井)	旧3(三中)
	東陸大会(富山大会)	7(研究・研修)	×	5(豊かな人間性)	11(健康・環境)	×	1(経営・ビジョン)	×	×
	全国大会(埼玉大会)	×	×	×	×	×	×	×	×
27	県大会(坂井大会)	5(危機管理)	7(自立と共生)	6(社会形成能力)	8(連携・接続)	1(学校経営)	2(坂井・教育課程Ⅰ)	3(教育課程Ⅱ) 吉田	4(現職教育)
	東陸大会(静岡大会)	10(危機対応)	×	11(社会形成能力)	×	2(組織・運営)	×	×	×
	全国大会(山口大会)	×	×	×	×	×	×	×	×
28	県大会(奥越大会)	7(自立と共生)	6(社会形成能力)	8(連携・接続)	1(学校経営)	2(教育課程Ⅰ)	3(教育課程Ⅱ)	4(現職教育) 福井	5(危機管理)
	東陸大会(岐阜大会)	×	×	×	2(評価・改善)	×	5(健やかな体)	7(リーダー育成) 福井	×
	全国大会(高知大会)	×	×	×	×	×	×	×	×
29	県大会(二州大会)	6(社会形成能力)	8(連携・接続)	1(学校経営)	2(教育課程Ⅰ)	3(教育課程Ⅱ)	4(現職教育)	5(危機管理) 吉田	7(自立と共生)
	東陸大会(愛知大会)	×	13(連携・接続)	×	×	×	×	9(学校安全) 吉田	12(自立と共生)
	全国大会(佐賀大会)	×	×	×	×	×	×	×	×
30	県大会(南越大会)	8(連携・接続)	1(学校経営)	2(教育課程Ⅰ)	3(教育課程Ⅱ)	4(現職教育)	5(危機管理)	7(自立と共生) 福井	6(社会形成能力)
	東陸大会(三重大会)	×	×	4(知性・創造性)	×	×	×	×	11(社会形成能力)
	全国大会(函館大会)	×	×	×	×	×	×	×	×
元	県大会(若狭大会)	1(学校経営)	2(教育課程Ⅰ)	3(教育課程Ⅱ)	4(現職教育)	5(危機管理)	7(自立と共生)	6(社会形成能力) 吉田	8(連携・接続)
	東陸大会(富山大会)	×	×	×	7(研究・研修)	9(学校安全)	×	×	×
	全国大会(秋田大会)	×	×	×	×	×	×	×	×
2	東陸大会(福井大会)	1(経営ビジョン) 10(危機対応)	4(知性・創造性) 3(評価・改善)	5(豊かな人間性) 8(リーダー育成)	7(研究・研修力) 6(健やかな体)	×	12(自立と共生) 2(組織・運営)	11(社会形成能力) 吉田	13(連携・協働) 9(学校安全)
	全国大会(京都大会)	×	×	5(豊かな人間性)	7(研究・研修力)	×	×	×	×
3	県大会(鯖丹大会)	2(知性・創造性)	3(人間性・健康)	4(人材育成)	5(危機管理)	7(自立と共生)	6(社会形成能力)	8(連携・協働) 吉田	1(学校経営)
	東陸・全国(石川大会)	×	5(豊かな人間性)	×	×	×	×	×	×
4	県大会(坂井大会)	3(人間性・健康)	4(人材育成)	5(危機管理)	7(自立と共生)	6(社会形成能力)	8(連携・協働)	1(学校経営) 福井	2(教育課程Ⅰ)
	東陸大会(静岡大会)	6(健やかな体)	×	×	×	×	×	2(組織・運営)	×
	全国大会(島根大会)	×	×	×	×	×	×	×	×
5	県大会(奥越大会)	4(人材育成)	5(危機管理)	7(自立と共生)	6(社会形成能力)	8(連携・協働)	1(学校経営)	2(知性・創造性) 吉田	3(人間性・健康)
	東陸大会(岐阜大会)	×	×	×	×	10(連携・協働)	×	×	×
	全国大会(東京大会)								
6	県大会(二州大会)	5(危機管理)	7(自立と共生)	6(社会形成能力)	8(連携・協働)	1(学校経営)	2(知性・創造性)	3(人間性・健康) 福井	4(人材育成)
	東陸大会(愛知大会)	×	×	×	13(社会との連携・接続)	3(評価・改善)	×	×	×
	全国大会(徳島大会)								
7	県大会(南越大会)	7(自立と共生)	6(社会形成能力)	8(連携・協働)	1(学校経営)	2(知性・創造性)	3(人間性・健康)	4(人材育成) 福井	5(危機管理)
	東陸大会(三重大会)	12(自立と共生)			1(経営ビジョン)				
	全国大会(福岡大会)								
8	東陸・県大会(福井大会)					福井が1本発表		吉田が1本発表	
	全国大会(北海道大会)								
9	県大会(若狭大会)								
	東陸大会(富山大会)								
	全国大会(東北ブロック)								

今後の会員予定数

R5 184 (183)	R6 183 (182)	吉田:7→6	R7 180 (179)	丹生:8→6 三方上中:9→8	R8 177 (176)	丹生:6→5 大野:9→7
--------------	--------------	--------	--------------	--------------------	--------------	------------------